



主治医の一言

第15号
平成28年8月発行
内科 太田 雅也

☆どうぞご自由にお持ち帰りください☆

暑さの厳しい夏本番がやってまいりました。体調を崩しておられませんか？

今月は神経内科のお話しです。

どんな病気を診察しているのでしょうか？

神経内科は、脳や脊髄、末梢神経、筋肉などの病気をみる内科です。頭痛、めまい、ふらつき、物忘れ、話しにくい、体や手足が動きにくい、体や手足がしびれる、体や手足が震えるなどの症状の原因を調べて治療します。頭痛、めまい、認知症、脳卒中、てんかん、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、脳髄膜炎、末梢神経炎、重症筋無力症、多発筋炎などの病気を扱っています。



頭痛

頭痛の経験のない人はいないと思います。風邪をひいて熱が出た時の頭痛、お酒を飲み過ぎた翌日の二日酔いの頭痛などよく経験する頭痛もありますが、くも膜下出血や髄膜炎など緊急に治療が必要な命にかかわる怖い頭痛もあります。急に起こり、これまで経験したことがないひどい頭痛や手足の麻痺やしびれを伴う頭痛の場合は、至急受診する必要があります。以前から同じような頭痛を繰り返している慢性頭痛の場合は片頭痛や緊張型頭痛などが多く、緊急性はありませんが、生活に支障をきたすようであれば適切な治療が必要です。慢性頭痛でもだんだんひどくなる場合は脳腫瘍などの可能性もあります。



めまい、ふらつき

めまい、ふらつきは体のバランスを保つ平衡機能の障害で起こります。めまいの感じ方は、「自分の体がぐるぐる回る」、「自分の周りの地球が回る」、「雲の上を歩くようにふわふわする」などさまざまです。体のバランスを保つ内耳（三半規管、耳石器）、前庭神経、脳幹、小脳、大脳、深部感覚などが障害されてめまいが起こります。内耳から起こるめまいには、良性発作性頭位変換めまい症、メニエール病、突発性難聴などがあります。難聴や耳鳴りを伴うこともあります。（ウラへつづく）

♪糖尿病教室♪

※糖尿病以外の方、ご家族も大歓迎です。

8月10日（水）糖尿病とは 医師：平谷和幸

時間：16時30分～17時30分 場所：真生会富山病院 さくら病棟 指導室1

8月24日（水）水虫と糖尿病 日本糖尿病療養指導士：今城都志枝

時間：16時30分～17時30分 場所：真生会富山病院 さくら病棟 指導室1

前庭神経から起こるめまいには、ウイルスによる前庭神経炎、聴神経腫瘍などがあります。脳幹、小脳、大脳から起こるめまいには、脳卒中、脳腫瘍、脊髄小脳変性症、パーキンソン病、多発性硬化症、てんかんなどがあります。また、起立性低血圧や脱水により脳への血液の流れが悪くなり、めまいを起こすこともあります。脳への血流低下による一過性の意識障害を失神と言います。心臓の病気や頚椎の病気、薬の副作用、騒音によるめまいもあります。



物忘れと認知症

認知症は概ね物忘れから始まり、進行すると、今日の日付や曜日、時間、今いる場所などがわからない、総理大臣など有名な人の名前が言えない、足し算や引き算の簡単な計算ができないなどの症状が出てきます。このため、生活に支障が出てきた状態を認知症と言います。認知症が更に進むと、昔のことも忘れ、自分の年齢や生年月日、家族や自分の名前もわからなくなり、外出しても家に帰れなくなります。行動様式や人格も変わってきます。代表的な認知症は、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症ですが、脳腫瘍、慢性硬膜下血腫、ビタミンの欠乏、甲状腺ホルモンの欠乏、アルコール依存症などでも認知症になります。一方、加齢に伴い誰しもうっかり忘れることがあります。加齢に伴う物忘れは生活に支障はなく、認知症とは言いません。また、認知症の前段階、予備軍があり、軽度認知障害と言います。軽度認知障害の多くはアルツハイマー型認知症に進行しますが、別のタイプの認知症やうつ病になったり、正常に戻ることもあります。軽度認知障害の段階で、認知機能の低下に気づき、早期に適切に対処できれば、認知症への進行を阻止したり、遅らせたりすることができる可能性があります。

体や手足の麻痺、しびれ

体や手足に力が入らないと、上手に字が書けない、上手に箸が使えない、上手に話せない、物を持って落とす、上手に歩けないという症状が出てきます。特に、急に体の片側の手足（例えば右の手足など）が同時に動きにくい、顔つきが変わる、ろれつが回らないといった症状が出た時は脳卒中の可能性が高く、早期の受診が必要です。受診が早いほど治療が早く始められ、後遺症が少なくなります。また、脳以外にも、脊髄や末梢神経、筋肉の障害によっても体や手足に力が入らない、体や手足がしびれることがあります。原因によって治療が全く異なりますので、正しい診断が必要です。

けいれん

けいれんは全身あるいは体の一部の筋肉が発作的に勝手に動くことです。大脳から脊髄、末梢神経、筋肉にいたる運動をつかさどる神経の障害でけいれんが起こります。手足を硬直させて泡を吹くてんかんは有名ですが、筋肉の一部がぴくぴくするような軽いけいれんもあります。熱中症や脱水症に伴い足がつるようなけいれん、こむら返りもあります。けいれんはてんかん以外に、脳の病気、腰や筋肉の病気、破傷風などによっても起こります。